

## 第1 地価公示結果における本県地価のポイント

1 平成29年1月1日における本県の地価は、住宅地では5年連続上昇し、商業地では4年連続上昇した。上昇率は住宅地、商業地ともに縮小した。

- (1) 平均変動率をみると、住宅地では0.6%（昨年0.8%）、商業地では2.4%（昨年2.7%）上昇した。
- (2) 上昇、横ばい、下落地点数の割合をみると、住宅地では、上昇地点が52.6%（昨年55.2%）、横ばい地点が30.4%（昨年26.6%）、下落地点が17.0%（昨年18.2%）となった。  
また、商業地では、上昇地点が62.2%（昨年60.3%）、横ばい地点が25.7%（昨年28.2%）、下落地点が12.1%（昨年11.5%）となった。

2 地域別の地価は、住宅地では、名古屋市、尾張地域、西三河地域は上昇率が縮小、知多地域、東三河地域は下落率が拡大した。また、商業地では、名古屋市は上昇率が縮小、尾張地域は上昇率が拡大、西三河地域は昨年と同様の上昇率となり、知多地域、東三河地域は住宅地同様、下落率が拡大した。

- (1) 地域別の平均変動率をみると、住宅地では、名古屋市で1.2%（昨年1.6%）、尾張地域で0.6%（昨年0.7%）、西三河地域で1.2%（昨年1.3%）上昇したが、知多地域で $\Delta 0.7\%$ （昨年 $\Delta 0.6\%$ ）、東三河地域で $\Delta 1.4\%$ （昨年 $\Delta 0.8\%$ ）下落した。  
また、商業地では、名古屋市で4.8%（昨年5.5%）、尾張地域で1.1%（昨年1.0%）、西三河地域では0.8%（昨年0.8%）上昇したが、知多地域で $\Delta 1.1\%$ （昨年 $\Delta 0.8\%$ ）、東三河地域で $\Delta 1.1\%$ （昨年 $\Delta 0.6\%$ ）下落した。
- (2) 市町村別の平均変動率をみると、住宅地では、長久手市など32市町（昨年30市町）で上昇したが、南知多町など14市町村（昨年15市町村）で下落した。  
また、商業地では、名古屋市など23市町（昨年24市町）で上昇したが、新城市など14市町（昨年14市町）で下落した。
- (3) 名古屋市各区の平均変動率を見ると、住宅地、商業地とも、港区を除く全ての区で上昇した。

3 最も大きい上昇率を示した地点は、住宅地では、「名古屋東-1（榑木町）」（6.8%）、商業地では、「名古屋中村5-22（名駅2丁目）」（29.0%）であった。  
一方、最も大きい下落率を示した地点は、住宅地では、「南知多-7（豊丘）」（ $\Delta 7.1\%$ ）、商業地では、「田原5-2（福江町）」（ $\Delta 7.1\%$ ）であった。

- (1) 住宅地では、上昇率上位5位までの地点は名古屋市東区、昭和区及び豊田市の地点となった。  
また、商業地では、上昇率上位5位までの地点は名古屋市中村区、中区、熱田区及び西区の地点となった。
- (2) 住宅地では、下落率上位5位までの地点は南知多町、美浜町、知多市及び田原市の地点となった。  
また、商業地では、下落率上位5位までの地点は田原市、南知多町、蒲郡市及び新城市の地点となった。